

學

nishogakusha
news
magazine
“MANABI”



vol.10
2004.12

学校法人
二松學舎

特集

日本漢文学研究の
世界的拠点の構築が

平成16年度

21世紀
COE
プログラム

に採択されました。



巻頭座談

21世紀 COE プログラム に採択されました。



21世紀COEプログラム事務局

平成16年度の「21世紀COEプログラム」に、
二松学舎大学の「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」が採択されました。
全国の国公私大学の320件という多数の申請があり、わずか28件の採択でした。
その採択までの経緯や、5年間にわたるプログラムに向けての構想と抱負を、
石川忠久学長と統括責任者の佐藤保教授、拠点リーダーの高山節也教授にうかがいました。

不採択で学んだからこそ、この快挙あり。

石川 今回の快挙の裏には、これまでのさまざまな積み重ねがありました。この「21世紀COEプログラム」は平成14年度から募集が始まり、二松学舎大学も、「国漢の二松」と言われる本学の特色を

出して応募に臨みましたが、第1回の応募は不採択でした。ですが、このプログラムの準備と並行して、日本漢学の研究教育の拠点づくりをいろいろな角度から始めたわけです。

佐藤 第1回の応募の時は、なにしろ最初の経験でしたから、今になって思えば不足などところがあったように思います。ですから、とてもいい経験になりましたね。まず平成14年に国際漢字文献資料



古文前集餘師四卷（天保七年京大谷仁兵衛等刊本）



古文眞寶後集十卷（慶長十九年跋刊本）



石川忠久 学長 Ishikawa Tadahisa

profile

1932年生まれ。1955年東京大学文学部卒業。同大学同大学院修了。1972年桜美林大学教授。1990年二松学舎大学大学院教授。1995年大学院文学研究科長。1999年理事長を経て、2001年学長に就任。(財)斯文会理事長。全国漢文教育学会会長。文学博士。

佐藤 保 教授 Sato Tamotsu

profile

1934年生まれ。1962年東京大学大学院博士課程退学。オーストラリア国立大学研究員、國學院大学助教授等を経て、1982年お茶の水女子大学教授、1997年同大学長。2002年二松学舎大学大学院教授、2003年常任理事。

高山節也 教授 Takayama Setsuya

profile

1947年生まれ。1971年國學院大学文学部卒業。1979年東京大学大学院博士課程退学。1983年佐賀大学教育学部助教授を経て、1988年二松学舎大学文学部助教授。1995年教授に就任。専門は漢籍書誌学。

プログラムを成功に導くための数々の難題。

センターを立ち上げて高山先生と他1名の専任教員を置き、専門家養成のための講習会を始めました。このセンターは現在、東アジア学術総合研究所の中に組み込まれ、より発展した形となっています。また平成15年から文学研究科のカリキュラムを大幅に改編。さらに国際シンポジウム開催の準備に着手し、今年第1回目を開催しました。

高山 最初の申請の時は、漢字で書かれたものはすべて取り返もうという発想があり、日本漢文学といってもかなり広い分野が入っていましたから、今回はその範囲を狭めました。今回提出した内容は、集約しながらグローバルな日本漢文学を想定したのになりましたね。今回320件の申請の中から44件のヒアリング対象に選ばれたときに、文部科学省の専門委員から質問や意見などが

石川 大仕事ですから、大小にわたり難題がありますね。このプログラムは各大学の学長がプログラムの代表になりますから、本学では私が代表となつていますが、実際にいろいろ手配をしていただくのは統括責任者の佐藤先生と、これを推進する拠点リーダーの高山先生です。それぞれに苦勞はつきませんが、私の立場から言いますと、文学部から研究所専任の教員を作ることが大変でした。優秀な人材はどこもほしいわけですから。

佐藤 私の立場では、テーマの絞り込みと、それにふさわしい人材を集めることが大変でした。この「21世紀COEプログラム」は5年間のプロジェクトですが、

あり、その後内示を受けると、また留意事項が書かれていましたので、2回ほど内容を修正する経緯がありました。

佐藤 今回採択されたプログラムには、大きく4つの柱があります。1つめは、日本人が関わった漢字漢文文献の収集や所在調査をし、国内はもちろん世界中のデータを集め、データベースを作るということ。2つめは、日本漢学研究をしている研究者の世界的な交流ネットワークの構築。今年の8月には国際シンポジウムを開催し、大変盛況でとても意義のあるものになりました。3つめは、研究者や専門家の養成です。そのために講習会などを開催します。4つめは、漢文教育です。漢字離れもひどい時代ですから、漢文教育をきちっとやれるようなテキストの開発をしていきます。

このプログラムは5年後も続いていくものですから、意識的に若い方を中心にして、12名のふさわしい方々をお願いすることにしました。

高山 頭が痛いのは、やはり予算の配分です。まずたくさんさんのメンバーがそれぞれに研究を進めるための予算が必要ですし、設備費や資料購入費、アルバイトの方への報酬など、限りある予算の中で、どう調整をとっていくかが非常に難しいです。初年度はそれほど予算がとれないのですが、次年度以降は徐々に予算が増えてきますから、今年がいちばん大変かもしれません。

石川 乗り越えなければいけない問題

は多くあると思いますが、このプログラム
の意味は漢文という大切な文化遺産を
守るための極めて重要なものです。採択
の理由に、「漢文は記紀時代より戦前ま
で日本文学の中心軸であったにもかかわ
らず、戦後は疎んじられ、漢文の読解その
ものも衰退しきつている。これは日本文化
の理解のために極めて危惧すべき事態で
ある。二松学舎大学はこの趨勢の中で、漢
文教育を堅持している希少な大学であ
り、本拠点形成計画は極めて重要である」
というコメントは、うれしいものでしたね。

佐藤 これでもし、大学入試センター試
験の問題から漢文の出題がなくなってい
まうと、まったく学ばなくなる可能性も
ありますね。

石川 漢文の読解力は相当衰退してい
ますよ。昔はみっちりやっていたけれど、今
や60代の人でもきちんと読める人は少な
いのではないのでしょうか。現在、漢文を教
育する機関がどこにもないです。その
点、少なくとも二松学舎の中国文学科
の学生は漢文訓読を必死に習得してい
ますし、高校では論語を学んでいます。

高山 図書館などでも漢文が読めない
から、そういった資料が扱いきれない。そ
れゆえ漢文書籍の整理がまったくされて
いない状態になっていたりします。大切な
資料が散逸したり廃棄されたりする前
に、なんとか保存しておきたいですね。

すべては、訓読という日本の文化を守るために。

石川 漢文の訓読というのは日本独自
の読み方です。歴史的にみれば、日本人
は日本に漢字漢文が入ってから、それを
使って文学はもとより思想、芸術、宗教
など、あらゆる分野の活動を行ってきた

えるかもしれないので、それもまた一
つの楽しみです。

佐藤 今はコンピュータ上でデータベ
ス化して、世界に発信する基地を作ろう
としています。最終的には二松学舎に
来れば実物の文献資料が見られる、とい
うのが夢ですね。

わけです。で
すから、今こ
の状況をなん
とかしなけれ
ば、日本文化
の根底に関わ
りますし、今
回よくぞ採択
してくれたと
いう思いです。

石川 楽しみですね。このプログラムが
採択されたことで、東アジアに焦点を置
いた国際政治経済学部にもいい刺激と
なっていますし、また本学だけでなく漢
字文化の振興に携わる人々の大きな期
待をも背負っています。そのぶん二松学
舎の責任は重いわけですが、127年の
伝統の底力で必ずや成功に導けるもの
と確信しています。



佐藤 しかも
海外にある文献を見に行く予定です。
これまで見たことがない文献に巡り会

高山 です。ですから、われわれは資料収集で
1年目は中国を中心に、2年目はベトナム
や韓国、3年目は欧米という順序で、
海外にある文献を見に行く予定です。

21世紀COEプログラムとは…

平成14年度から文部科学省が始めた特別事業。「我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野別に形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学作りを推進する」ことを目的としています。今年「革新的な学術分野」が対象となり、全国の大学から320件の応募があり、28件が採択。狭き門となっています。

申請
320件

| | |
|------|--------------|
| 私立大学 | 40.6% (130件) |
| 国立大学 | 48.8% (156件) |
| 公立大学 | 10.6% (34件) |

採択
28件

| | |
|------|-------------|
| 私立大学 | 14.3% (4件) |
| 国立大学 | 82.1% (23件) |
| 公立大学 | 3.6% (1件) |

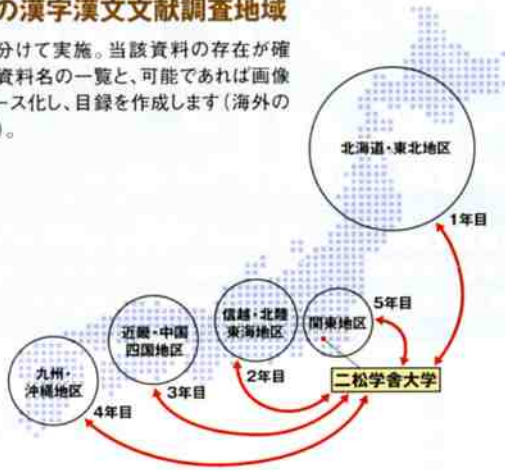
平成16年度「21世紀COEプログラム」国公立別申請・採択状況



「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

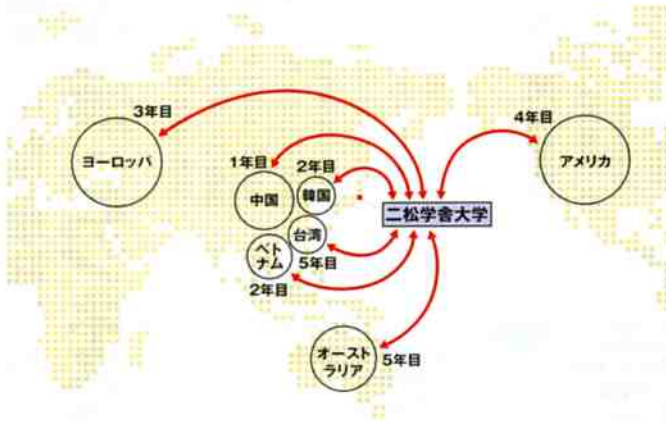
日本の漢字漢文文献調査地域

年度ごとに分けて実施。当該資料の存在が確認されたら、資料名の一覧と、可能であれば画像をデータベース化し、目録を作成します(海外の場合も同様)。



世界の漢字漢文文献資料の主な調査地域

本学拠点に漢字漢文文献の情報が一手に蓄積され、それらに関する情報要求にすべて答えるようになることが目標です。



プログラムの概念図

大学院文学研究科ではカリキュラムを大幅に改訂し、また東アジア学術総合研究所を設置して専門家の養成に着手。全学体制で拠点形成に臨みます。

漢字文化の再生と発展



調査対象となる漢字漢文文献資料



日本漢文
日本人の手によって書かれた漢文・漢詩等



和刻本漢籍
日本で版木を作って中国の本を印刷し直したもの



準漢籍
中国の漢籍に日本人が注や解説をつけたもの

公開講演会のお知らせ

- 演題** 外国における日本漢文学研究の現状と課題
- 講演者** 12月17日(金) 呉格教授(上海・復旦大学)
1月8日(土) ファンデフレ教授(ベルギー・ルーヴァンカトリック大学)
- 時間** 両日とも14:00~15:30

- 会場** 二松学舎大学九段キャンパス 201教室
- 聴講料** 無料(事前の申し込みは不要)

お問い合わせ

21世紀COE事務局 03-3261-3535